

2024年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
52202	教育心理学 Educational Psychology	井手裕子		専門	2	必修	2前期

科目の概要
 教育心理学は、教育場における心身の発達促進及び学習指導の過程を、様々な心理学的知識を用いて明らかにする学問である。本科目ではまず、教育心理学が扱う様々な理論について紹介する①②③。特に、学習理論、動機づけ、記憶等、の研究者の知見を学修し①③。どのように教えたか理解しやすいかという方法論を活用できるようにしたい④⑤。また、乳幼児期の発達プロセスやその特徴について、様々な研究を紹介しながら解説する①②③④⑤。そして、学修した知識を保育や教育場において、どのように応用、実践できるかについてディスカッションしながら理解を深めていく①③④⑤。これらの取り組みを通して、幼児教育および保育の現場で活躍できるための専門的知識・技能を修得し、それぞれの現場で協調性を持って柔軟に活用する能力を身につける①②③④⑤。以上はディプロマポリシー(DP)に相当する。

学修内容	到達目標
① 教育心理学の方法を学ぶ。 ② 愛着、自己、言語、遊びの発達を学ぶ。 ③ 学習理論、動機づけについて理解する。 ④ 知能、パーソナリティ、アセスメントについて、学ぶ。 ⑤ 発達障害、不適応（不登校、いじめ等）に対する状況に応じた支援を学ぶ。	① 教育心理学の方法を理解し、説明できる。①②③④⑤ ② 乳幼児、児童、生徒の心身の発達（愛着、自己、言語、遊びの発達等）を理解しながらそれを活用して関わることができる。①②③④⑤ ③ 乳幼児、児童、及び生徒の学習、動機づけに関する基礎知識を身に付け、発達を踏まえた学習指導をを活用しながら関わることができる。①②③④⑤ ④ 知能、パーソナリティ、アセスメントについての基礎知識を身に付け、それらを活用することができる。①②③④⑤ ⑤ 発達障害、不登校、いじめについての基礎知識を身に付け、知識を活用して関わることができる。①②③④⑤

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例	
前に踏み出す力	主体性	調べ学習、事例検討等を自発的に発表する等、主体的な学修を行うことができる。
	働きかけ力	
	実行力	学修内容が十分に理解できるように積極的に取り組むことができ、事例検討、グループ討議等の困難な課題にも粘り強く取り組むことができる。 提出物、指示された課題について、期限を守ることができる。
考え抜く力	課題発見力	理論家の知見から問題点を発見し、事例につなげ、問題解決に導くことができる。
	計画力	
	創造力	事例の解説を土台とした自らの新しい発想を通して事例を解釈し支援計画を考えることができる。
チームで働く力	発信力	グループ討議の結果をクラス全体に分かりやすく発表することができる。また、相互に教え合うアクティブラーニング形式の学習方法を実行することができる。
	傾聴力	<ul style="list-style-type: none"> ・静かに集中して聴き、要点を理解しようとしている。 ・発表者の意見を自分の立場に置き換えて、発表者の意図を汲み取りながら聴くことができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻、無断欠席など学習意欲欠如をきたす行動をせず、ルールを守ることができる。 ・欠席した場合は、欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

テキスト：藤田哲也「絶対役立つ教育心理学 実践の理論、理論を实践」ミネルヴァ書房（¥2800+税）
 その他：適宜プリントを配布する。

他科目との関連、資格との関連

他教科との関連：保育の心理学、幼児理解、障がい児保育、教育相談、保育内容（人間関係）
 資格との関連：幼稚園教諭二種免許、保育士、准学校心理士

学修上の助言	受講生とのルール
教育心理学は、自分の経験に置き換え、重ね合わせると理解しやすい。自分の現実生活を想像しながら理解すること、幼児教育にどのように応用できるかということ念頭において、授業に臨んでほしい。	授業は集中して聞き、疑問点、質問がある場合は積極的に質問すること。 ・20分を超えた遅刻は欠席扱いとする。 ・授業態度が悪い場合（居眠り、私語、周囲に迷惑をかける行為等）は、「実行力」を減点することがある。 ・提出期限締め切り過ぎた場合には、「実行力」が減点されることがある。 ・課題提出について、「レポートの書き方のルール」に添わない場合、課題を減点する。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標		各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	90	①	✓		学修内容①～⑤が理解できているかどうかについて、基本的な定義、概念、用語の理解を問う問題を出題し、評価する。	
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
	平常評価	小テスト		0	①			
					②			
					③			
					④			
					⑤			
		レポート		0	①			
					②			
					③			
					④			
					⑤			
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		0	①			
					②			
					③			
					④			
					⑤			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）		10	①	✓		(主体性) 調べ学習等の自発的な学習に主体的に取り組む。 (実行力) 事例検討、グループ検討等の困難な課題に粘り強く取り組む。課題提出の期限を守る事ができる。 (課題発見力) 理論家の知見を学習した上で、そこから問題点を導き、事例につなげていくことができる。 (創造力) 事例の解説通りでなく、それを土台とした自らの新しい発想を通して事例を解釈し、支援計画を考案することができる。 (発信力) 自分の意見をクラス全体にわかりやすく発表できている。相互に教え合うアクティブ・ラーニング形式の学習を実行することができる。 (傾聴力) ・静かに集中して聞き、要点を理解しようとしている。 ・発表者の意見を自分の立場に置き換えて、発表者の意図を汲み取りながら聴くことができる。 (規律性) ・遅刻、無断欠席など学修意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。 ・欠席した場合は、欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。	
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
S：Aの到達レベルに加え、社会人基礎力（意欲、リーダーシップ等）が申し分なく発揮できる。 A：筆記試験，社会人基礎力（学修態度），その他（課題）の評価方法において十分な力を発揮できる。	B：筆記試験，社会人基礎力（学修態度），その他（課題）の3つの評価方法において力を発揮，もしくは2つの評価方法において十分な力を発揮できる。 C：2つの評価方法において力を発揮，もしくは1つの評価方法において十分な力を発揮できる。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	オリエンテーション(教育心理学とは)、シラバスを概観し、学修の目標を立てる。教育心理学の評価方法を学ぶ	講義 評価方法、課題提出の ルールのレクチャー、 この授業の目標、抱負 を記述する。(提出課 題)。	教育心理学とは何か、保 育との関連、等が理解で き、自分の目標、抱負を 記述することができる。 また、教育心理学で用い られる評価方法(観察 法、実験法、検査法、調 査法、事例研究法)がシ ミュレーションできる。	予習：テキスト第0章 を読む。 復習：プリントに記載 されている方法論を見 直す。	180	主体性 実行力 課題発 見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
2	「学習理論」の基礎を 学ぶ ポスターセッション①	前回の質疑応答(前回 振り返りシートの フィードバック及び質 問の解説) 講義、調べ学修 ポスター制作	心理学の理論的潮流で ある行動主義、認知主 義について理解でき る。また、学習とその 転移・構え、分散およ び集中学習について理 解できる。	予習：テキスト第1章 p15～29を読む。 復習：テキスト、プリ ントの「学習」につい ての記載を読み直す。	180	主体性 実行力 課題発 見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3	「学習理論」を学ぶ ポスターセッション② 事例検討	前回の質疑応答(前回 振り返りシートの フィードバック及び質 問の解説) 講義、調べ学習、ポス ター発表 事例検討、討議	心理学の理論的潮流で ある行動主義、認知主 義、また、学習とその 転移・構え、分散およ び集中学習について理 解し、わかりやすく説 明できる。	予習：テキスト「学習 理論」の章を読む 復習：ポスターセッ ションで発表された学 習理論の用語につい て、レポートする。 (提出課題)	180	主体性 実行力 課題発 見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
4	「動機づけ」を学ぶ (いかに子どもの動機 づけを高めるか)	前回の質疑応答(前回 振り返りシートの フィードバック及び質 問の解説) 講義、事例検討	生理的および社会的動 機、内発的および外発 的動機、学習意欲と学 習無力感について体験 的に理解できる。特に 学習意欲を高めるため の方法についてシミュ レーションできる。	予習：テキスト第2, 3 章p31～55「動機づ け」の章を読む。 復習：テキストに記載 された動機付けの箇所 を見直し、まとめる。	180	主体性 実行力 課題発 見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
5	「動機づけ」を学ぶ (いかに子どもの動機 づけを高めるか) 知見からの事例検討	前回の質疑応答(前回 振り返りシートの フィードバック及び質 問の解説) 講義、事例検討、(討 議、発表)	生理的および社会的動 機、内発的および外発 的動機、学習意欲と学 習無力感について体験 的に理解できる。特に 学習意欲を高めるため の方法についてシミュ レーションできる。	予習：テキスト「動機 づけ」の章を読み、課 題を考えておく。 復習：授業の内容を ノートにまとめる。	180	主体性 実行力 課題発 見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6	記憶を学ぶ (記憶の効率的な方 法)	前回の質疑応答(前回 振り返りシートの フィードバック及び質 問の解説) 講義	記憶の定義とメカニズ ム、記憶の種類につい て体験的に理解でき、 説明できる。	予習：テキスト第4, 5 章p57～84を読む。 復習：授業内容をノー トにまとめる。	180	主体性 実行力 課題発 見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
7	知的能力の発達を学ぶ (ビネー式、ウェクス ラー式知能検査の体 験) パーソナリティの発 達、性格を学ぶ (心理検査の体験)	前回の質疑応答(前回 振り返りシートの フィードバック及び質 問の解説) 講義、心理診断法の体 験、グループ討議	知能とその発達の推移、測 定方法、その他の能力との 関連性について、パーソ ナリティがどのように形成さ れるか(遺伝説・環境説 等)、パーソナリティの評 価方法(類型論・特性論・ 性格検査・適応不応)に ついて体験的に理解でき、 説明できる。	予習：知能、パーソ ナリティに関するプリ ントを読む。 復習：知能、パーソ ナリティに関する完成さ れたプリントを見直 す。	180	主体性 実行力 課題発 見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
8	教育・保育における評 価(客観的な評価方 法)、評価バイアスを 乗り越える方略を学ぶ	前回の質疑応答(前回 振り返りシートの フィードバック及び質 問の解説) 講義、調べ学修、ポス ター制作	客観的で先入観の入ら ない平等な教育評価と その目的・方法を把握 し、保育の実際におけ る活用方法をシミュ レーションできる。	予習：学習評価に関 するプリントを読み、わ からない用語を調べて おく。 復習：ポスターセッ ションで発表された教 育評価に関する用語を 見直す。	180	主体性 実行力 課題発 見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	パーソナリティ、評価バイアスについて ポスター発表	前回の質疑応答(前回振り返りシートのフィードバック及び質問の解説) 講義、調べ学修、ポスター制作の発表 グループ討論	学修した各用語を活用し、発表と、討議ができ、課題レポート作成後に提出する。	予習：ポスター制作 復習：ポスターの内容をレポート課題として提出する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10	発達について 発達障がいのある子どもの教育・保育を学ぶ(知的障害、発達障害、ADHD等) 事例検討	前回の質疑応答(前回振り返りシートのフィードバック及び質問の解説) 講義、動画鑑賞、グループ討論 感想を課題提出	発達障害の子どもの特性を動画によって理解し、どのように支援できるかシミュレーションできる。	予習：テキスト第13章 p201～214を読む。 復習：発達障害等の特徴を内容をノートにまとめる。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11	保育のなかで生かす教育心理学を学ぶ(集団、自己、仲間、環境)	前回の質疑応答(前回振り返りシートのフィードバック及び質問の解説) 講義 事例検討におけるグループ討論	集団、役割、自己コントロール、友人関係、環境を話題とし、実際の支援例を読み解いて対応をシミュレーションできる。	予習：集団、役割、自己コントロール、友人関係、環境についての用語を調べる。 復習：事例検討を振り返り、再度見直し、違う対応を考える。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12	子どもをめぐる教育的問題を学ぶ(1) (園・学校でありがちな問題行動等) 不適応行動について：不登校	前回の質疑応答(前回振り返りシートのフィードバック及び質問の解説) 講義、DVD視聴 グループ討議	不登園、不登校を話題とし、実際の支援例を読み解いて対応をシミュレーションできる。	予習：不登校について、定義を調べておく。 復習：DVD視聴の感想を記述する。(提出課題)	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13	子どもをめぐる教育的問題を学ぶ(2) (園・学校でありがちな問題行動等) 不適応行動について：いじめ	前回の質疑応答(前回振り返りシートのフィードバック及び質問の解説) 講義 グループ討議	いじめを話題とし、実際の支援例を読み解いて対応をシミュレーションできる。	予習：いじめの定義を調べておく 復習：感想と、実際の対応をシミュレーションする。(提出課題)	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14	就学に向けての準備戦略を学ぶ(幼・保・小連携)、「気になる子ども」についての事例検討会、支援方法の実際	前回の質疑応答(前回振り返りシートのフィードバック及び質問の解説) 講義 調べ学習、グループ討議	就学までに目指す到達点を理解し、気がかりな子どもの事例や保護者からの相談例を読み解いて対応をシミュレーションすることができる。	予習：テキスト第10章 p151～168を読む 事例プリントを読み、対応方法を考える。 復習：討論を再度見直す。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15	オンデマンド授業 理想のクラス運営を学ぶ。動画鑑賞 まとめ	オンデマンド 動画を鑑賞後、課題を行いClassroomに提出する。 今までのまとめ、質疑応答	クラス運営について動画により学び、その意義を理解できる。	復習：授業内容をノートにまとめる。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力